

## 「集中治療に携わる看護師の臨床ラダー」パブリックコメント Q&A

Q1. JNA ラダー\*では「身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面」と全人的なヘルスケアについて行動目標が記述されています。今回のラダー実践例には、レベル I や II の段階で社会やスピリチュアルといった部分が含まれていないように読み取れました。全人的に対象をとらえることは、看護の根幹でありレベル I から助言を受けながらあるいは学校で学んできたことを活用しながら段階的に実践する内容かと考えます。

※JNA ラダー：「看護師の臨床ラダー（日本看護協会版ラダー）」

A

ご指摘の通り、レベル I や II の段階から全人的な側面をとらえ実践することは必要だと考えます。このラダーは、JNA ラダーを基盤としており、集中治療領域の専門性が浮かび上がる実践例を提示しております。したがって、看護師としては JNA が示す全人的なヘルスケアの視点を備えていることを前提にしつつ、集中治療にある患者・家族に関しては、レベル I や II の段階においては、特に「痛み、精神症状」についての情報収集ができるという実践例を提示しています。

Q2. ラダー作成の経緯について、看護実践能力に注目した理由を詳しく提示いただきたいです。近年、集中治療室に入室する患者は多様化しており、看護実践能力のみならず、倫理的な課題に対する取り組みや一社会人としての立ち振る舞いなどがとても重要であると感じます。

A

「社会人基礎力」や「組織的役割遂行能力」の要素が入っていないというご意見と解釈しました。まず、「社会人基礎力」は看護実践能力として考えていません。看護実践能力とは患者・家族に対して、専門性の高い看護を実践する能力としています。このため、接遇などを含む、社会人としての能力はラダーで示すような段階的に習得するものではなく、必須が前提と考えております。このためラダーには含めていません。また、「組織的役割遂行能力」に関しては、所属する組織によって期待される役割は異なります。本学会は学術団体として、患者・家族のケア満足度を高めるための看護実践者としての「あるべき姿」を提示させていただきました。これは、キャリアラダーを否定するものではなく、各施設のキャリアラダーの看護実践能力の部分を強調して示したものとご理解ください。

Q3. ラダーの内容について、「実践例」が抽象的と感じます。評価するものされるものそれぞれが同じ目線で使えるよう、具体的な例文があったほうが良いと考えます。例えばラダー I、ケアする力、「術後の呼吸・循環・代謝を考慮した看護ケアの実践」→術後患者へ清潔ケアを実施する際に、評価を行い、実施後に呼吸・循環・代謝が悪化しない。等の表現が追記されると良いと考えます。

A

ラダーの評価対象は看護師です。したがって、実践例の表記の主語は「患者」ではなく、「看護師」となります。患者目標を記載することがないように気をつけていただきたいと考えています。